

中・高等教育機能のあり方に関する有識者会議 報告書の概要

1 中等教育機能（高校）に関する事項

- 作陽高校移転による市内中学生の進学への影響について、高校の入学定員と中学校からの進学者数の需給バランスを推計すると、今後の急速な少子化により、数字上の影響は限定的。
- しかし、作陽高校は、スポーツや音楽等の分野で市内他校が代替できない水準の教育を実施しており、これを志向する生徒は市外へ進学する可能性が高く、中学校では、より多様な進学先を想定した丁寧な進路指導が必要。また、移転により、学校教育活動に伴う経済活動や地域貢献活動が失われるため、影響の緩和に向けた対応が必要。
- 津山市に所在する各高校が、積極的に魅力づくりや活性化を図るとともに、地域課題をテーマとした研究等を通じ、生徒が主体的にこの地域について考えることは重要。彼らが社会に貢献できる世代となった際、地域を俯瞰し、都市機能の維持や発展に寄与するためのバックボーンになることから、行政による支援や関与が求められる。

2 高等教育機能に関する事項

- 人口減少や感染症拡大を契機とした価値観の変化など社会変容が生じる中、地域や企業の変革を牽引する人材を育成する高等教育機関の重要性は、一層高まる。
- 人口減少がより急速に進むこれからの時代、地方で質の高い教育機会を確保することは今以上に困難になるため、行政が教育機能の維持や確保に関わる意義はある。
- 地域や企業の変革を牽引する高度人材の育成について検討する場合、美作大学の公立化は、これまでに培った強みを活かすことや、施設整備費の軽減を図ることができる可能性があり、検討すべき選択肢の一つとなり得る。
- 美作大学の公立化についても議論したが、既存施設の状況や、学部を新設・改組する場合の事業継続性に不確実な点があった。更なる検討においては、検証体制の構築や、市民、経済界の理解や意識の醸成が必要。
- 津山市が教育機関への支援、設置や運営に関与する場合、その理念が重要。
第一に、地域課題の解決に資する教育研究活動が、社会的に評価される水準にあり、成果が地域へ還元されることが必要。
第二に、地域人材の好循環の実現。卒業生がこの地域で就職や起業し、変革を牽引し、都市の機能と活力を高める。そのことで新たなビジネスが生まれ、一度は津山市を離れた人材も都市部から還流する。
そのような地域人材の好循環と、魅力ある教育研究活動の実践を目的とすべき。

3 有識者会議 開催の経過と開催日程

津山市における中・高等教育機能のあり方を、教育的観点だけでなく、まちづくりの観点から検討するため、令和2年6月から12月までの間、4回にわたり会議を開催し、意見交換を行った。本報告書は、各委員の所見を取りまとめたものである。

開催回	開催月日	議事内容
第1回	令和2年6月30日	以下の事項に関する事務局からの説明と意見交換 ・津山市の人口動態、中・高等教育機関の状況 ・全国や岡山県の大学進学状況、公立大学の状況
第2回	令和2年8月27日	
第3回	令和2年10月20日	意見交換と所見の取りまとめ
第4回	令和2年12月22日	

4 有識者会議 委員名簿

No.	氏名	所属団体、職名等
1 副座長	池田 義和	岡山県美作県民局 次長
2 座長	今井 康好	岡山大学大学院教育学研究科 教授
3	大川 圭介	大川圭介公認会計士事務所 代表 (公認会計士、税理士、行政書士)
4	園田 哲郎	岡山県高等学校長協会 美作支部 副支部長 (岡山県立津山東高等学校 校長)
5	出島 誠之	津山市みらい戦略ディレクター 岡山県政策アドバイザー (株)出島プランニング 代表取締役)
6	西山 公二	津山商工会議所 専務理事

(氏名50音順)